

(提案13)

日本学術会議主催学術フォーラム「乳児を科学的に観る：保育実践政策のために」の開催について

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 共催（予定） 東京大学大学院教育学研究科
- 3 後援（予定） 日本保育学会、日本赤ちゃん学会、日本発達心理学会、日本教育学関連学協会
- 4 日 時 平成27年1月11日（日）13:00～16:40
- 5 場 所 日本学術会議講堂

6 開催趣旨

教育学分野の学術の展望にもとづき提出した大型重点研究計画「乳児発達保育実践政策学研究教育推進拠点の形成」にもとづき、乳児の発達基礎科学の最前線の知見を一般の市民に提供するとともに、その知見と現在の日本が置かれている保育実践ならびに現在の保育政策との関連と課題を専門的知識をもとに議論をすることをねらいとする。現在の乳児がおかれている保育の状況に対して、学術知見からよいよいあり方、そのための政策のあり方についての問題提起と対話のための企画である。

7 次第（予定1名も含む。）

13時—13時10分

総合司会 遠藤 利彦（日本学術会議連携会員、東京大学教育学研究科教授）

開会挨拶・企画主旨説明

秋田喜代美（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

13時10分—14時45分 第一部 「乳児発達科学の基礎からの提言」

司会 渡辺 はま（東京大学大学院教育学研究科特任准教授）

小講演 山田 重人（京都大学大学院医学研究科教授）

「解剖学・発生学からみる胎児の発達（仮題）」

高橋 直人（東京大学医学部附属病院医師）

「新生児医療からみる発達とその障害（仮題）」

多賀厳太郎（東京大学大学院教育学研究科教授）

「乳児期の脳と行動認知の発達」

遠藤 利彦（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

「社会性発達の揺籃としての乳児期：縦断的アタッチメント研究が物語るもの」

指定討論 小西 行郎（日本学術会議連携会員、同志社大学赤ちゃん学研究センターセンター長）

14時25分—14時45分 討議

14時45分—15時 休憩

15時—16時半 第二部「エビデンスに基づく保育実践政策のために」

司会 秋田喜代美（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

小講演 坂崎 隆浩（野木保育園園長、日本保育協会理事）

「保育所から見る子ども子育て支援制度と保育政策」

本郷 一夫（東北大学大学院教育学研究科長・教授）

「被災地子どもたちからみる保育政策」

小玉 亮子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学部人間文化創生科学研究科教授）

「家庭的保育の質評価」

篠原 郁子（国立教育政策研究所主任研究員）

「乳幼児の情動発達と保育政策の国際動向」

指定討論 村上 祐介（東京大学大学院教育学研究科准教授）

16時10分—16時半 討議

16時半—16時40分

全体総括・閉会挨拶

遠藤 利彦（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

(提案 1 4)

公開シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして PART II」
の開催について

1. 主 催 日本学術会議言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域
研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会
東洋学・アジア研究連絡協議会

2. 日 時 平成 26 年 12 月 13 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 00

3. 場 所 東京大学法文 2 号館 1 番大教室

4. 分科会の開催 開催予定なし

5. 開催趣旨

日本と世界の東洋学・アジア研究の衰退の危機を克服し、関連する学問の
新たな振興をめざすことが、今、求められている。それは、(1) 21 世紀に
生きる現代の人間としての観点に立って、東洋・アジアにおける個別的文化
現象の諸価値を内在的に再構成するためにも、(2) こうした個別的な文化
研究の積み重ねを総括する中で、東洋・アジアから世界に向かって発信する
新しい人間科学 (Human Sciences) を興こすためにも、大きな意味を持つ。
東洋学・アジア研究に携わる多くの研究者は、自己の学問的ディシプリンや
所属する研究機関・学協会の相異を超え、相互に連携・協同しあいながら
危機に立ち向かっていく必要がある。その具体的な活動の一環として、昨年
(平成25年) 12月に開催されたシンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな
振興をめざして」を踏まえ、今年度は PART II の開催を企画する。

6. 次 第

開会挨拶：池田 知久 (東京大学名誉教授、東洋学・アジア研究連絡協議会会長)

司会・報告者紹介

斎藤 明* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研
究科教授、日本印度学仏教学会会員)

堀池 信夫 (日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授、日本道教
学会会員)

島田 竜登 (東京大学大学院人文社会系研究科准教授、東南アジア

学会会員)

中見 立夫 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授、
東アジア近代史研究会会員)

報告：岸本 美緒 (お茶の水女子大学文教育学部教授、元日本学術会議連
携会員 (第 22-21 期))

「日本学術会議 (言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域
研究委員会合同 アジア研究・対アジア関係に関する分科会) 『人文
学的アジア研究の振興に関する提言』 (平成 26 年 7 月) について」

中谷 英明 (関西外国語大学外国語学部教授・東洋文庫研究員・東
京外国語大学名誉教授、日仏東洋学会会員)

「実践知を基盤とする人間学の展望」

阿部 健一 (総合地球環境学研究所教授、東南アジア学会会員)

「環境学という人間科学：『アジア』からの発信」

濱田 正美 (龍谷大学文学部教授、内陸アジア史学会会員)

「『東洋学の危機』について」

総合討論：

司会 堀池 信夫 (日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授、日本道教
学会会員)

閉会挨拶：久保 亨* (日本学術会議第一部会員、信州大学人文学部教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案 15)

公開シンポジウム「免疫を手なずけて病を治す」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 薬学委員会 生物系薬学分科会

2. 共 催：日本薬学会

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 27 年 1 月 9 日（金）13:00～17:10

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

免疫現象の解明と利用が、医学・薬学領域における科学と技術の発展において極めて大きな貢献をして来たことは、文明史から見ても明らかである。21 世紀の初頭前後から、免疫現象に基づく創薬が大きいうねりとなり、薬学領域の中で最も注目される方向性となっている。即ち、免疫現象の担い手の一つである抗体を医薬として利用することにより、それまで不治とされた種々の難病が治療可能になった。それらの医薬品は世界の医薬品市場の動向を激変させ、貿易均衡にまでインパクトを与えた。ごく最近では免疫抑制を解除することをメカニズムとする新しいがん治療薬が臨床の現場で大きく注目されている。日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会では、このような現状認識に基づき、薬学領域だけでなく、基礎医学、臨床医学、生物工学などの周辺領域を母体とする研究者及び医薬品医療機器の規制担当者を交え、免疫系の制御を基盤とする疾患治療に関するシンポジウムをここに開催する予定である。薬学や生物学に関係する学術研究者、トランスレショナルリサーチに興味を持つ医療従事者や研究者、医薬品の開発に関与する研究者等、広い範囲の聴衆が期待される。

8. 次 第：

13:00～13:10 開会挨拶

清木 元治*（日本学術会議第二部会員、高知大学医学部附属病院・次世代医療創造センター特任教授）

太田 茂（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授、日本薬学会副会頭）

座長：遠藤 玉夫*（日本学術会議連携会員、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所副所長）

13:10～13:40 「抗体医薬の現状と将来」

岡部 尚文（中外製薬株式会社執行役員・研究本部長）

13:40～14:10 「ヒト型化抗 CCR4/CD4 抗体の癌治療への応用」

松島 綱治（東京大学大学院医学系研究科教授）

座長：関野 祐子（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター・薬理部部長）

14:20～14:50 「食品による免疫制御」

辻 典子（独立行政法人産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門分子複合医薬研究グループ主任研究員）

14:50～15:20 「注射と冷蔵保存が不要なコメ型経口ワクチン MucoRice の開発」

清野 宏（東京大大学医科学研究所所長・感染・免疫部門教授）

座長：笠原 忠*（日本学術会議連携会員、国際医療福祉大学大学院教授、慶應義塾大学名誉教授）

15:30～16:00 「漢方薬による免疫制御」

済木 育夫（富山大学和漢医薬学総合研究所民族薬物研究センターセンター長・教授）

16:00～16:30 「バイオ製剤最適化によるリウマチ治療の進歩」

竹内 勤（慶応義塾大学医学部附属病院病院長）

16:30～17:00 「抗 PD-1 抗体世界初承認とがん免疫療法の開発・審査の課題について」

佐藤 大作（独立行政法人医薬品医療機器総合機構再生医療製品等審査部長）

17:00～17:10 まとめ・閉会挨拶

入村 達郎*（日本学術会議連携会員、聖路加国際大学研究センター特別顧問、医療イノベーション部部長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 16)

公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を望む」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 自然史財の保護と活用分科会、同動物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会

2. 共 催：日本分類学会連合

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 27 年 1 月 10 日（土）13:00～17:00

5. 場 所：国立科学博物館大講堂

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

東北地方の博物館等施設に保管されていた自然史標本が東日本大震災で被災したことを教訓に、日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 自然史標本の文化財化分科会と動物科学分科会、そして自然史・古生物学分科会の 3 分科会は共同して第 22 期学術の大型研究計画マスタープランに応募し、「自然史科学のイノベーションを目指す国立自然史博物館の設立」が学術大型研究計画の一つに採択された。このことを受け、国立自然史博物館の設立の重要性を社会へ発信し、学界での機運を盛り上げることを目的とする。

8. 次 第：

13:00～13:25 学術会議が進めてきた国立自然史博物館の設立要求

岸本 健雄*（日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター客員教授、東京工業大学名誉教授）

13:25～13:50 学術大型研究計画「自然史科学のイノベーションを目指す国立自然史博物館の設立」とは

松浦 啓一*（日本学術会議連携会員、独立行政法人国立科学博物館名誉研

究員)

13 : 50～14 : 15 自然史標本の保全と新しい国立自然史博物館構想

西 弘嗣* (日本学術会議連携会員、東北大学学術資源研究公開センター教授)

14 : 15～14 : 40 沖縄と国立自然史博物館

西田 睦* (日本学術会議連携会員、琉球大学副学長)

14 : 40～14 : 55 休憩

14 : 55～15 : 20 国立自然史博物館に何を望むのかー地方博物館からの視点

瀬能 宏 (神奈川県立生命の星・地球博物館企画普及課長)

15 : 20～15 : 45 国立自然史博物館の設立は自然史科学に何をもたらすのか

西田 治文* (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授)

15 : 45～16 : 00 休憩

16 : 00～17 : 00 パネルディスカッション

司会：馬渡 駿介* (日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)

17 : 00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部・第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 17)

公開シンポジウム「第 8 回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会
2. 共 催：安全工学会、地盤工学会、土木学会、日本機械学会（※幹事学会）、
日本建築学会、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本船舶海洋工学会
3. 日 時：平成 27 年 10 月 14 日（水）～16 日（金）（3 日間）
4. 場 所：日本学術会議講堂 外 5 室
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

「構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム」は構造物の安全性・信頼性に関する諸問題について、専門領域を越えた幅広い研究発表および討論を通じて、当該技術レベルと学術の向上を図ることを目的に 4 年に一度開催される総合シンポジウムである。本シンポジウムは機械・構造物の安全性・信頼性評に関する最も権威ある国際会議「International Conference on Structural Safety & Reliability」の国内版として長年開催されてきた。平成 23 年に開催の前回シンポジウムでは、同年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を現段階で総括すると共に、総合的なリスクの視点も含め安全性確保の方法論のこれからあるべき姿について専門分野を超えて議論する場を設けた。

7. 次 第：

学術会議会員・連携会員を中心として、災害、原子力発電所事故、社会インフラの老朽化に対処するための学術のあり方に関するパネル討論等を実施する。

10 月 14 日(水)

・挨拶 10:00～10:15

松本洋一郎*（日本学術会議第三部会員、東京大学理事・副学長・教授）

新井 民夫*（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学教育イノベーション

ン推進センター教授)

- ・研究発表 10:30～12:00 研究発表 30 件
- ・特別講演 13:15～14:15 「リスクコミュニケーション」
北村 正晴（東北大学名誉教授）
- ・研究発表 14:30～17:00 研究発表 50 件

10 月 15 日(木)

- ・研究発表
9:30～12:00 研究発表 50 件
13:00～14:00 研究発表 20 件
- ・パネルディスカッション 14:30～17:00
「不確定事象を含むシミュレーションの V&V をどう行うべきか」

10 月 16 日(金)

- ・研究発表 9:30～12:00 研究発表 50 件
- ・特別講演 13:15～14:15 「航空機の信頼性評価」
岡田 孝雄（宇宙航空研究開発機構）
- ・研究発表 14:30～17:00 研究発表 50 件

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催委員会委員)